

平成 21 年度当初予算 重点的な取組別概要

< 重点事業 >

元気 6 : 東紀州地域の観光や産業の振興と地域づくりによる活性化

(主担当部 : 政策部東紀州対策局)

< 重点事業の目標 >

東紀州地域が一体となって観光や産業の振興と地域づくりなどを総合的に推進していく「東紀州観光まちづくり公社」を設立するなど、熊野古道センターや平成 21 年オープン予定の紀南中核的交流施設などの機能を最大限に生かしつつ、東紀州地域の活性化に向けた取組を進めます。

さらには、地域の基幹産業であるかんきつ農業、水産業をはじめとする一次産業の活性化に向けて、次代の担い手育成や生産基盤の整備、高品質・高付加価値化をはかるための試験研究などに取り組みます。

< 構成事業 (担当部) >

- (1) 東紀州観光まちづくり推進事業 (政策部東紀州対策局)
- (2) 熊野古道センター運営事業 (政策部東紀州対策局)
- (3) 中核的交流施設整備事業 (政策部東紀州対策局)
- (4) 県営中山間地域総合整備事業 (農水商工部)
- (5) 紀南版元気なみかんの里創生事業 (農水商工部)
- (6) 揮発油税財源身替農道整備事業 (農水商工部)
- (7) 畑地帯総合農地整備事業 (農水商工部)
- (8) 東紀州地域の水産業活性化対策事業 (農水商工部)
- (9) 養殖基地機能向上事業 (農水商工部)
- (10) 熊野灘海域浮魚礁設置事業 (農水商工部)
- (11) 農林水産物主産品高品質化技術開発事業 (環境森林部、農水商工部)

< 重点事業の事業費 >

(単位 : 千円)

	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度
策定時の見込額 1	892,436	1,428,000	1,474,000	1,449,000
予算額等 2	1,108,586	1,121,410	1,485,047	

1 第二次戦略計画策定時における計画記載額

2 H19 年度は決算額、H20 年度は予算現額、H21 年度は予算要求額

< 重点事業の数値目標 >

数値目標項目		H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度
東紀州地域における 推定観光消費総額指数	目標値	-	103	105	108	110
	実績値	100	103			

東紀州地域の産業振興の度合いを測るため、そのけん引産業となる観光産業の進展状況を表すものとして、東紀州地域への観光入込客数と一人あたりの平均観光消費額の積を「推定観光消費総額」と定義づけ、平成 18 年の当該数値を 100 として、その増減について指数化したもの。

< 構成事業の目標 >

目標項目		H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度
(1)東紀州観光まちづくり公社がまちづくりなどの取組に対し、参画した件数（累計）	目標値	-	3 件	4 件	5 件	5 件
	実績値	2 件	3 件			
(2)来館者数	目標値	-	84 千人	86 千人	88 千人	89 千人
	実績値	-	124 千円			
(3)施設利用者数	目標値	-	-	-	138 千人	162 千人
	実績値	-	-	-		
(4)整備計画策定および整備地区数	目標値	-	1 地区	2 地区	2 地区	2 地区
	実績値	-	1 地区			
(5)南紀みかんの三重ブランド規格構成率	目標値	-	24%	27%	33%	37%
	実績値	18%	24%			
(6)新規供用延	目標値	-	-	-	-	1.3km
	実績値	-	-			
(7)畑地かんがい面積（累計）	目標値	-	-	-	10ha	26ha
	実績値	-	-			
(8)事業実施地区数	目標値	-	6 地区	6 地区	6 地区	6 地区
	実績値	-	7 地区			
(9)養殖施設機能向上率	目標値	-	78%	83%	92%	100%
	実績値	74%	78%			
(10)浮魚礁設置数（累計）	目標値	-	2 基	3 基	4 基	8 基
	実績値	-	2 基			
(11)技術開発件数（累計）	目標値	-	2 件	4 件	6 件	13 件
	実績値	-	3 件			

< 進捗状況（現状と課題） >

- ・ 「東紀州観光まちづくり公社」は三重県観光販売システムズと連携し、熊野古道など地域資源を生かした観光商品づくり、須賀利のまちなみ等新たな観光資源の発掘、雑誌やテレビを活用した観光情報の発信等により東紀州地域への集客をはかっています。また、地域の事業者ニーズに応じた産業支援策の紹介、観光事業者のサービス向上をはかるセミナー等の開催、後継者育成の事業研究などを行なっているところであり、観光振興、産業振興、まちづくりの面から、さらに地域のコーディネーターとしての役割を充実していく必要があります。
- ・ 熊野古道センターは、東紀州地域の伝統技術をもつ匠たちを紹介する企画展や地域の食材を生かした料理教室など、地域の資源を生かした様々な事業を実施していますが、来館者の再訪をはかるための取組を充実させるとともに、地域の多様な主体と連携を密にし、集客交流の機能を高めていくことが必要です。
- ・ 紀南中核的交流施設は、補助事業者において施設整備が着実に進められており、地域と事業者との連携を促進し、市町と協働して事業推進に向けた調整を行っています。
- ・ 中山間地域の農業・農村の活性化をはかるため、総合的な基盤整備や計画策定に取り組んでいます。
- ・ かんきつの高品質選果システムの評価と検証を行いながら、優良品種の導入等を進めるとともに、農道やかんがい施設などの生産基盤整備を進めます。また、新規就農希望者に対するサ

ポート体制の充実をはかり、確実に就農へつなげていくよう取り組んでいます。

- ・ 地域特性を生かした持続的養殖の推進や経営安定に向けて、マハタの特産品化やマダイ養殖の「生産情報公表」JASの認証取得に向けたモデル的な取組を支援するとともに、養殖陸揚げ施設整備や浮魚礁の設置などに取り組んでいます。
- ・ かんきつ、尾鷲ヒノキ、マハタ・クエの高品質化等のための研究開発を進めており、生産者等へスムーズに技術移転を行うことが必要です。

<平成21年度の取組方向>

「東紀州観光まちづくり公社」の地域のコーディネーターとしての役割を強化し、ビジネスの手法を取り入れた自立性・持続性を持った地域の活動の展開・支援、担い手の育成、地域の基幹産業である第一次製品の販路開拓等、産業振興に取り組むとともに地域資源を活用した着地型・体験型観光の事業展開に取り組めます。

熊野古道センターや平成21年7月オープン予定の紀南中核的交流施設を最大限に活用し、地域の魅力を体験できるプログラム等により集客交流につなげていきます。

活力ある農村づくりに向け、紀南地域の中山間地域総合整備事業に着手するとともに、かんがい施設や基幹農道の整備など果樹産地の活性化の取組を着実に進めていきます。

魚類養殖など水産業の振興や、農林水産物（かんきつ、尾鷲ヒノキ、マハタ・クエ）の高付加価値化のための研究開発などを引き続き推進し、地域の生産者等への技術移転を進めます。

<主な事業>

東紀州観光まちづくり推進事業【基本事業：53301 持続可能な自立した地域の基盤づくりの推進】
(事業(1))

予算額：(20) 22,126千円 (21) 21,019千円

事業概要：東紀州地域が一体となって観光振興、産業振興およびまちづくりを総合的に推進していく「東紀州観光まちづくり公社」に対し市町と連携しながら支援することにより、東紀州地域の活性化事業を推進します。

熊野古道センター運営事業【基本事業：53302 地域の宝に気づき、守り、生かす集客交流の推進】
(事業(2))

予算額：(20) 63,777千円 (21) 63,961千円

事業概要：熊野古道センターは熊野古道の魅力を全国に情報発信するとともに、熊野古道とその周辺地域の情報収集・集積機能および地域内外の人びととの交流機能を果たすよう、多様な主体との連携を密にしながら、さまざまな取組を行います。

中核的交流施設整備事業【基本事業：53302 地域の宝に気づき、守り、生かす集客交流の推進】
(事業(3))

予算額：(20) 134,254千円 (21) 375,805千円

事業概要：紀南地域の振興をはかるため、集客交流の推進に向け、補助事業者による中核的交流施設の施設整備及び運営等に対し支援します。

紀南版元気なみかんの里創生事業

【基本事業：53303 地域資源を生かし、地域の底力を高める産業振興の推進】(事業(5))

予算額：(20) 6,045千円 (21) 5,742千円

事業概要：東紀州地域の重要な産品であるかんきつについて、その需要に応じた品質の果実を供給し、果樹産地の基盤を強化するとともに、担い手確保や地域の人、資源を生かした産業観光の推進に支援することにより紀南地域の産業全体の活性化を促進します。

東紀州地域の水産業活性化対策事業

【基本事業：22601 水産資源の持続的利用と安全・安心の確保】（事業(8)）

予算額：(20) 7,568千円 (21) 6,332千円

事業概要：地域特性を生かした持続的養殖の推進や経営安定に向けて、ヒロメ（海藻）の複合養殖の技術開発に取り組むとともに、マハタの特産品化や、マダイ養殖の「生産情報公表JAS」の認証取得に向けたモデル的な取組を支援します。

熊野灘海域浮魚礁設置事業【基本事業：22603 水産生産基盤の整備】（事業(10)）

予算額：(20) 120,000千円 (21) 150,000千円

事業概要：熊野灘海域において、浮魚礁を設置することによって、かつお等の回遊性魚類を蜻集させ、漁業生産力を向上させるとともに、効率的に漁獲することによって労働力の軽減等をはかります。